

## 2022年度 釧路市立高等看護学院 学校関係者評価

・コロナ禍の状況は、昨年度に引続き、対面授業・行事及び実習等の教育環境に様々な影響を与えたものの、オンライン遠隔講義をはじめとする授業の工夫がなされ学生の学習活動を停滞させることなく教育活動の継続が図られている。

教育理念・目的、5つの目標を基本とし、各学年到達目標の習得に教員一丸となり取り組んでいる。

教員定数、業務時間の制約がある中、次年度に導入する教務支援システムにより更なる業務の効率性が図られるため、そこから生み出される時間を学生対応や自己研鑽に転換できるよう期待する。

入学に関しては、一定数の受験倍率・定員が維持されているものの、オープンキャンパスや母体病院（市立釧路総合病院）との連携、看護職のやりがいや必要度をPRする実技体験を含めた児童生徒も視野に入れたキャリア教育の実施など、安定的な学生確保に向けた対策が急務である。また、高校訪問を根室、十勝及びオホーツク地域へ拡充したことによる効果・成果を分析（訪問校での具体的な教員の働き掛け・生徒の反応）し、今後の訪問地域や内容を精選する必要がある。特に釧路市立高等看護学院は、小規模で教員が学生全体に関わり授業を基本として教育目的や活動を共にする意識が醸成できる環境であり、教員サポートの組織化が構築されていることが大きなアピールポイントとなる。そのことを学校、地域及び保護者へ様々な媒体を通じて周知していくことが重要である。

低評価である地域社会/国際交流カテゴリーは、コロナ禍もありボランティアや地域に向いたり招いたり活動に制限があったことが大きく影響しているが、次年度は活動再開により評価が伸びると思われる。国際交流に関しては、受入・対応体制を視野に入れていないため今後も低評価が継続するものと推測する。研究カテゴリーは、本中に記載している教務支援システム導入により生み出される時間を効果的に使うことで、改善が図られる。

総評としては、自己点検・自己評価のほぼすべての内容において、教員間の共通認識及び意識醸成が形成され適正かつ適切に教育活動が図られていると評価する。

・コロナウィルス感染症により、実習が思うようにならない状況が続いていた。その様な中、学内における学習支援として、施設設備の工夫や整備に力をいれてた。また、学生の学びを保証するために昨年度の評価を活かし、計画的に教育指導していた。

今後は、積極的な研究への取り組みと学会への参加を計画的に取り入れ、教育の質向上に努めて欲しい。また、実習病院である市立釧路総合病院と協働し、地域交流の場を増やし、将来の看護学生数の維持を目指してほしい。